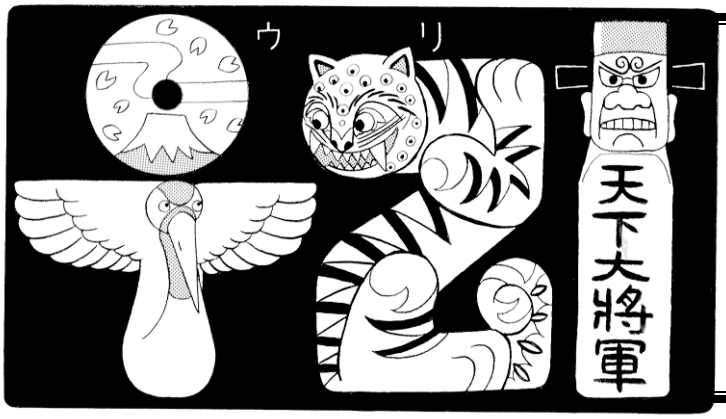

日韓合同授業研究会会報

第 112 号

2018年2月4日発行

韓日合同教育研究会
日韓合同授業研究会　**第24回**北海道交流会　日程:8月3日(金)～8月6日(月)
会場:アルテン苫小牧

学習会報告

「北海道」における多民族共生教育の現状と課題

－アイヌ民族に関わる人権教育と日韓・日朝が連帯する教育を求めて－

2017年12月9日　　しんじゅく多文化共生プラザ（ハイジア11階）にて
報告　吉田(北教組)　　司会　善元　　記録　川辺

１　はじめに

こんにちは。アンニョンハセヨ。イランカラァテは、「あなたの心に触れさせて下さい」という意味で、アイヌの正式な挨拶の言葉です。道庁もこれでキャンペーンをしています。

日教組の日本と中国と韓国のフォーラムを善元さんとやってきました。テーマの北海道は、あえてカギ括弧をつけ、多文化ではなく多民族共生としました。文化だけやればよいという動きがあるからです。十勝の幕別小学校で、再任用で、3年から6年の理科、5.6年生の外国語活動を受け待っています。北教組の平和・人権分科会でアイヌ関係の資料を集め、交流しながらセミナーをやっています。北海道全部を回って、アイヌ民族の方の話や、どう実践に活かすかの講演等を集めて本にしました。『イランカラァテ　アイヌ民族を知っていますか？先住権・文化継承・差別の問題』(明石書店)

２　アイヌ民族に関する人権教育

①「北海道の歴史」とは　　ビデオ『アイヌモシリ　アイヌ民族の誇り』

鎌倉時代からアイヌ文化は形成された。隣人の和人と交易を行っていた。(ラッコ、昆布、熊の毛皮、鮭等。和人からは米や金属器、漆器等）アイヌの地（アイヌモシリ）は蝦夷地として外国扱いだった。13世紀から和人がやってきた。江戸時代になり、松前藩は場所請負制を始め、幕府に運上金を払い、アイヌ民族を労働力として酷使するようになった。一方、アイヌ民族独自の生活文化である鮭漁・採集等が沿岸部・河川・平野で行われた。肥

目　次

「北海道」における多民族共生教育の現状と課題・・・・・・・・・1
アイヌ・アイヌモシリ・蝦夷地・北海道　　8

料として鰊の需要も多く、酷使に耐えかねたアイヌが戦いに立ち上がった。すでに2度あったが、最後の戦いになった1789年のクナシリ・メナシの戦いは37名の犠牲者を出した。ロシアと国境地の交渉が続き、明治2年、開拓使を設置、蝦夷地を北海道と改めた。アイヌモシリを日本の国土、アイヌ民族を日本国民として、生活文化を壊していった。葬儀にチセを燃やす家送り、入れ墨などを禁止した。法律が施行され、アイヌモシリは植民地化され、主権は奪われ和人に荒されていく。1886 年、道庁設置、和人による大規模開拓が進められた。この時和人は 8 万人、1891年には161万人に増加。土地が払い下げられ、53万8千町歩 。1899年、北海道旧土人保護法が公布された。差別が固定化された。和人には1戸に33町、アイヌには5町。教育でも、日本語が強制される一方、カリキュラムは別であった。1911年、ラッコ・オットセイ保護条約をアメリカ・イギリス・ロシアと結ぶ、この時は先住民として位置づけられていた。1948年の農地改革の対象になり、さらに土地が取り上げられた。差別への憤り・抵抗は、金成マツが残した英雄叙事詩に歌い継がれ、今も各地で翻訳されている。1961年、アイヌ民族の歴史を理解してもらい、社会的地位の向上をめざしてウタリ協会ができた。数年前までは、存在しないと位置づけられたアイヌ民族を代表して、1992年、国際先住民年に野村義一が国連総会で演説。1994年、萱野茂がアイヌ民族として初の国会議員となり、1997年、アイヌ文化振興法が公布された。

②「アイヌ民族の学習」の現状（資料：『アイヌ民族に関する人権教育検討委員会報告』2010年）

地域学習の一環として、各市町村は小学校４年生向け副読本を作って、アイヌの文化と歴史を教えているが１頁、8頁、15頁と違いがある。教科書では、中学校の歴史と小学校の5年で取り上げているが沖縄と並んで少し扱われているだけ。これに対して私たちは、「振興財団」に要求して副読本作りをしてきた。わかりやすくするため、仲間も協力した。小4用（全48頁）と中2用（全47頁）の2種。全員に配布している。一時期、教育委員会や管理職の所でストップしていたこともあったが、議会でも追及し、全員に届くようになった。国の予算で作られるようになった。本州にも各学校に配布。指導書も作り利用しやすくしている。どれくらい実践されているかとアンケートをとったが6割くらいだった。北海道において6割は少ないと、組合でも力を入れている。

副読本：『アイヌ民族：歴史と現在―未来を生きるために―』（改訂版・第8版）

（初版は2008年。公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構発行）

③アイヌ文化学習の実践例（資料：「生活科」で学ぶアイヌ文化　アイヌ民話劇づくり

2013年　アイヌ民話劇「パナンペと銀の子犬」づくりを通して　報告　吉田淳一）

小2で30時間でやった。副読本やアドバイザー事業を活用。イラストー動物の名前、アイヌの呼び名、言葉で導入。紙を4つ折りにしてアイヌ文様をつくり廊下に置いておく。鉢巻きづくりをする。民話を読む等した。アイヌの人たちが来て、歌を唱い、子どもたちが踊る。

保護者も好意的で、違う文化に小さいときから触れること、子どもたちが自分の民族性に肯定的であることは大切であると話す。子どもたち自身が「僕のおばあちゃんはアイヌだったんだって」「いいな。うらやましいな」という声も聞かれ、嬉しかった。過去にもこうした声が聞かれた。

北海道の教室には必ず、アイヌのルーツをもつ子どもたちがいることを前提にして授業をすることが必要だと思う。

④「先住権」をめぐる動きと教育内容化への課題（副読本問題等）→署名へのご協力を

（ 資料：小4　副読本　p.34の「6　北海道の『開拓』とアイヌ民族」の記述）

「1850年ころ、北海道のほとんどの場所に、アイヌの人たちが住んでいました。しかし、1869年に日本政府は、この島を『北海道』と呼ぶように決め、アイヌの人たちにことわりなく、一方的に日本の一部にしました。そして、アイヌ民族を日本国民だとしたのです。しかし、日本の国はアイヌ民族を『旧土人』と呼び、差別し続けました」に対して、当時文部科学副大臣であった義家弘介と北海道の一部の議員が一緒になって、「日本が盗人のようではないか」と言い、2010

年削除させた事件があった。事実に反していないと抗議し、復活させた。守り抜いた副読本です。
また、p. 41 で、国連宣言で採択された先住民の権利の内容を以下のようにあげている。
a 先住民の土地や資源をとりもどす。
b 昔から守ってきた文化を守り、発展させる。
c 政治の場で意見を言う。
しかし、日本政府は、文化だけの紹介、日本文化の一部として紹介しているだけである。アドバイザー事業として、5 時間の授業をした。子どもたちからはアイヌモシリの土地を奪い申し訳ない、という感想があった。ここから、さらに一歩進める必要があると思う。

３　日韓・日朝連帯を志向する教育

①アイヌ民族と朝鮮人のつながり（資料：石純姫さんの新聞記事）
小川隆吉:アイヌ民族についての活動、朝鮮人だった民衆史の掘り起こし、「北海道と少数民族」等にまとめてくれた。

②22 回を数えた「日朝友好授業交換会」
日本人教員が朝鮮学校の子どもたちに授業をする。今年はジェンダーの授業をした。私は帯広から、できるだけ参加している。

③強制連行・強制労働の掘り起こしをめざした（資料：『ほっかいどう平和マップ』の制作。2006 年北教組　作成委員会）
朝鮮人・中国人の強制連行。北海道は福岡県に次ぐ人数。中国人は約 2 万人。平和マップをつくって各地で掘り起こしをしてきた。北海道庁自身が 700 頁の記録を作っている。革新の横路さんが知事の時に作っている。「なかった」というキャンペーンがされているが資料として実践に使われている。

④朝鮮人強制連行・労働の教材化と授業化の取組（資料:2007 年第二回日中韓平和教材リポート）
「地域にあった戦争」教材化と実践　金昌模（キムチャンモ）さんから聞き書き。授業に呼んで話を聞いた。「日本につれてこられた金さんの話」として副読本に載せたいと考えている。
木の皮を素材に作ったアットゥシという衣服がありますが、使っていると柔らかくなるのです。

４　課題は何か　（以下、参加者による質問・発言を「問」と表記します。名前は割愛いたします。）

問:初めて北海道に行き、地図を眺めることが多いのですが、地名に～別が多いのはなぜですか？
吉田：北海道の地名は、全部漢字は当て字です。別は、アイヌ語の川の意味です。内のつく地名も川の意味、北海道の東側は別が多く、西側は、内が多い傾向があるようです。
問:副読本は、どのくらい使われているのか
吉田：半分以上。社会科でかなり使われている。しかし、実際に確保するのは難しいとアンケートでも出ている。
問：副読本を直せ、の声に根拠はあるのか？
吉田：根拠はない。彼らは、自虐史観と見て変えさせようということでは。アイヌの方と北教組は共闘して変えさせなかった。随分頑張り守り抜きました。
みなさんに聞きたいことがあります。みなさんのアイヌのイメージは、どのようなものか？また、教えられたことがありますか？どんな感じでしたか？
司会：授業で教えられた経験は？
問：私は 60 年生まれですが、「コタンの口笛」を担任の先生が、4～5 年で教えてくれ、心動かされた。中学では「銀の滴降る降るまわりに」に知里幸恵の生涯と文章が、教科書に載っていまして、何年かその教科書は使われていたのできちんと教える先生であれば教えたのではないか。

問：私は全然教わったことはない。関係があるとすれば、小学校の時、文化行事でアイヌの人たちを呼んで、歌とか踊りとかを、全校生で講堂みたいなところで鑑賞した憶えがあります。中学の音楽の教科書に「ピリカピリカ」という歌が載っていた記憶があります。
司会：こちらで習っているのは文化とか歌が多い。おじいさん、おばあさんは、「アイヌだった」と過去形でしか言えない。自分は名のらない。
吉田：差別の問題でいえば、かなり深刻で、40 代後半の女性のアイヌの方で、中学の時に「差別」という作文を書いて、全国的に知っている人は知っている方が、彼女が札幌のスーパーでレジをしていると「お前アイヌだろう、オレのものに触るな！」と。つい数年前にそういうことが行われている。資料『アイヌ民族に関する人権教育検討委員会報告』3 枚目の下、p. 9 に載っているアンケート「差別の実態を考える」で、「アイヌの子どもたちに差別があると思うか」という質問に、北教組では全体で 4%しか「ある」という答はなかった。昨年 3 月の内閣府の発表によると、一般人は 17. 9%、アイヌ人は 72%。道庁の調査もそのくらい。当事者は常に差別されているという実感を持ちながら、生活している周りの人たちは既にないと思っている。このギャップこそ問題だし教員は深刻に受けとめていかなければならないと考えています。差別が見えなくなっている。
司会：当事者と周りの差が 60%ぐらいあるというのは相当な数字だ。
問：文化の伝承、言葉はどうなっているか？小学生に言葉は伝わっているか？家庭の問題ですか？
吉田：政治の責任として、やらなければならないと思う。「アイヌ語教室」をそれぞれ地域のアイヌ協会が主催してやっている。そういう形でつながっている。
問：沖縄の場合、私は東京で暮らしているものですが、沖縄出身は禁句だった時期があった。歌手の仲宗根美樹は、熊本出身と名のっていた。「ちゅらさん」とか安室奈美恵が出てきて、沖縄と言えるようになった。アイヌはそれもない。一般の人の意識の中にない。被差別部落も大阪では意識されるが、関東では意識されない。アイヌに対する認識は、デパートで北海道展をするときにある熊の木彫りが一般的。
司会：先住民として考えるとき、言葉は民族にとって大事だが、ユネスコは、アイヌ語は滅亡する、沖縄はギリギリとみている。
吉田：民族学級、民族学校をつくろうという動きもないわけではない。二風谷の小学校では総合学習でアイヌ文化・アイヌ語を教えていた。
問:私は在日朝鮮人ですが、教えられる子どもの側に立つとき、「早く終わらないか」と思うか、親が賛同するかどうか、「アイヌであることを知らないで育てて欲しい」という親も当然いる。その点をどう思うか？
吉田：私自身は自己紹介のところにも書いておいたように、障害のある子もない子も学ぶ場を分けないで、普通学級であるべきだ。一緒の学びの中で、自らの民族性を回復していくことが大事だと思うので、「民族学級」をつくるべきだという人と議論しているところでもある。インクルーシブ教育が世界史的な流れで進んでいるので、そういうカリキュラムが求められているのではないか。親たちは子どもたちに教えないでくれというのは、以前に比べて少なくなっている。帯広で学習サークルに時々参加しているが参加者が増えている。以前は取材があると絶対に顔を映さないでくれ、名前も顔も出さないということがあったが、1997 年アイヌ文化振興法が成立、それ自体は問題がある、文化だけにしてアイヌ協会が要求していた先住権を放り投げてしまったというところがあるのですけれども、副読本もでき、八重洲口にもアイヌ文化センターができたし、それを契機に子どもたちも「名前出してもいいよ」と言うし、アイヌ関連の記事も毎日のように出て、時代は少し変わったように思う。
司会：関東には 8, 000 人のアイヌの人たちがいる。北海道アイヌ協会に登録している人が 2 万人いるという。自分がアイヌと認めたらアイヌだ、というアイデンティティが新鮮だった。

吉田：アイヌ民族と結婚すれば和人もアイヌ。寒さに逃げ帰る和人の子どもをアイヌが育てる。アイヌの家庭で育った、アイヌ民族という自覚があればアイヌ。カムイからの授かり物として育てた。
問：アイヌは他と比べて貧しいか、進学率も低いか、の2点を伺いたい。札幌大学のとりくみについても教えて欲しい。
吉田：2万人のアイヌについて、北海道庁は5年ごとに調査しているが、全体としてもあるが、経済格差がより大きく貧しい。進学率も低い。札幌大学の副学長は萱野さんについていた方で、ウレシバ（アイヌ語で育て合いの意味）（育ちアイヌ）を優先的に入学させ、研究させ賛同する企業に就職させている。5～6年になる。認知されていく上で貴重なことだと思う。
司会：内面的、自覚的でというところで誇りを持ちうることが大切だろう。金城先生は、沖縄人であることをどこで、意識しますか？
問：「言葉」と「自然」で、沖縄人として自覚します。自然でいえば、植生が違う。中南米原産の花が咲いている。桜も本土の桜とは違う。歌と踊りと劇が違う。
　今日の話は、沖縄歴史教育研究会がやっていることと、恐ろしいほど構造が似ているのでびっくりしている。「振興法」、副読本を作った経緯、沖縄でもやりたい。機運はあるのだが。2008年正式に「科目」として認可されたこと。
吉田：「アイヌ協会」から、「ウタリ協会」に変えたのは、アイヌは差別語として使われていたので仲間という意味のウタリに変え、さらに、認知度の高いアイヌに変え、「アイヌ協会」になった。協会からアイヌの歴史と文化をきちんと教えろ、という要求があったことが副読本づくりの背景にある。萱野さんが補欠から当選し参議院議員になったことは大きい。北海道の知事が社会党ブロックで当選した横路さんの力も働いていた。釧路の公立、明輝高校で「アイヌ学」が選択教科として設置されている。釧路アイヌ協会の故石黒さんの力がありカリキュラムの中で選択科目として授業している。受講生徒は一定程度いる。私立の旭川龍谷高校も20数年前からやっている。
吉田：アイヌの墓から盗掘した人骨が、いくつかの大学、北大には1,000体以上があり地域への返還が進んでいたが、北大の超有名な一部のアイヌ学者が一緒になって、2020年に向けて各地の遺骨を集めて、白老に新たな博物館を作ろうとしている。北大のアイヌ先住民研究センターの先生方が高校生向けの副読本をつくっていたが、先住権の問題で、途中で止めてしまった。原稿は宙に浮いている。沖縄の中高生向けの副読本『琉球史』のようなものをと、作りはじめたのですが。土地・資源・参政権に踏み込んでいくと、壁にぶつかり、立ちはだかっているのが今のアイヌ政策の現状。文化に留めようとしている。
司会：金城先生は高校の国語の先生ですね。親の言葉はどのくらい理解できますか？
問：ある程度親の言葉は聞いてわかります。話すことは、毎日言わないので言えなかったりする。
司会：完璧でなくても、自分のアイデンティティですね。
　韓国学校では、どうですか？在日の子どもたちは、韓国育ちの人より言葉が少ないですね。韓国人の語彙数は2万語といわれますが。韓国で育ったヘジンさんは、どう考えますか？
問：アイヌ語について、今の時代が求めているかどうかで考えたい。自分の文化をどう意識させるか。初等部児童は、英語と韓国語と日本語を混ぜて学んでいる。実際に、自分の言語を習得する段階になっていない子どももいる。そのまま中高生になる子もいる。日本の小中学校から編入して来る子もいる。アイデンティティを自覚するかどうかで発展が違う。韓国人であろうが、日本人であろうが、また国際人を目指しているか。語彙数が問題ではなく、対象を学んでみよう、対象に好感度を持っているかが、成長・習得の鍵。
　先日、韓国文化院に講演を聴きに行ったのですが、日本人もかなりいた。学んでみようとする人もいるし、好感度を持っているかどうかだ。今は、韓国の先生と言っても、問題にならないと

思いますが、長く在日として生きてきて差別を受けて、朝鮮人とか韓国人と言えなかったこともあったと思う。韓国史を教えているがこれが難しい。歴史教科書も、以前は国史として国定の1種類しかなかった。今は高校では韓国史とアジア史があり、8種類の検定済み教科書から選ぶ。

司会：韓国はユネスコで「単一民族」ではないとしているが、韓国の大学生に聞くと、単一民族という生徒が多かった。どう考えたらいいか？

問：学び方が間違っていた。国定教科書に、単一民族と書いていた。今は、多文化家族が多くなり認めようと韓国政府も変わった。誰が変えていくか。政治と学者が一緒に動かないと変わらないと実感した。上から変わった。変化は早いが、反発する人たちもいる。

司会：韓国は、一度も単一民族であったことはない。ユネスコは、単一民族はない、イスラエルも含めて、といっている。韓国政府の政策も変わったが、上からなので、学生に浸透していない。中国の瀋陽の教会では朝鮮族と韓国人が別々の教会をもって祈っていたが、仲はいい。

問：韓国は一度も他国を攻めたこともない。日本のいう単一民族と韓国のいう単一民族とは若干違うと思う。

問：ウタリの話は勉強になった。北大の人骨の話ですが、アイヌだけでなく段ボールに入った東学農民運動の首魁（リーダー）と書かれた頭蓋骨もあった。その存在を私も知らなかったが、朴孟洙（パクメンス）さんが北大に留学して取り組んだ。2 年前、その遺骨を抱いて韓国に行き埋葬した。私も同行した。殿平住職が中心になって（強制連行・強制労働犠牲者を考える）北海道フォーラムが開かれた。アイヌの人たちだけでなくオーストラリア人、アメリカ人、中国人、韓国人が話し合った。東アジアの問題として取り組むことが大事だと思った。

吉田：近代日本の天皇制国家・明治政府の最初の植民地がアイヌの暮らす北海道で成功して朝鮮半島、中国大陸に出て行ったという認識を常に持ちながら日本近代史を捉え直すことが必要だ。資料も残っている。近代史を子どもたちと学んでいくときに、侵略・植民地支配、負の歴史に向きあっていくことが大事だ。和人のルーツを持つ子どもたちがいて「侵略した、うちのおじいちゃんが悪いの」と聞いてくる。朝鮮についても事実なので受けとめた先に、どうやって新たな世界を作っていくのか、実践のなかでも検討していかなければならない時期に入っていると思う。子どもたちの人権意識に帰ってくる。教員の人権意識が高ければ、自からの民族の過ちをきちんと受けとめることができると思う。歴史学習・平和学習と人権学習のつながり・重層性が、今まで以上に重要になってくるし、そこがないと東アジアの様々な問題の解決に、韓国の「ハン」（恨）が解けないということになっていくのではないか。

問：日韓関係は、97 年あたりが最高潮というか、一定の成果を収めたのですね。それ以来 2000 年以降になって、日本社会における一種の反動というか、2008 年あたりから教科書問題や領土問題が出てきたが、これからどうなっていくか？これからのアイヌ政策の展望は？

吉田：6 年生に歴史の話をしたりすることがあるのですけれども、「あれは侵略戦争じゃないんだよ。日本を守るための戦いだったのだよ。先生それは違うのだよ。」という子どもがぼつぼつ出て来ていますよね。そういった意味ではネットの歪曲した歴史の見方というものが子どもたちに拡がっている。それに対抗するちゃんとした正しい歴史の記述が教科書では弱くなってきているという問題があるので、もう一回立て直していく必要があるかな。どんな政府ができても最終的な選択は私たち民衆が持っているのではないか、そういう意味でもう少し自信を持ちながらね。私が常に思うのは、自己紹介にも書いたのですけれども、韓国の民主化闘争の時期に学生で、光州蜂起に連帯するデモとかを一生懸命に仙台の領事館にかけている。2001 年頃光州で、東アジアフォーラムがあって、光州の地に立って、光州の墓地がありますね、学生たちの写真がありますね。それを見てひどく感動した記憶があるのですけれども、韓国のように日本でも、民衆が自分たちの手で民主主義を勝ち取っていく経験がこれから本当に大事になっていくのではないかな、と思

います。難しいかもしれないが、そのキーになるのが沖縄と北海道ではないだろうか。
司会：本当のことはどうでもよくて、事実がどんどん変えられていくという中で、我々は、何ができるのだろうと思います。意見があればお願いします。
　さっきの東学農民運動の指導者の人ですよね。その人の骨が北海道にあったというのは、びっくりしますよね。なんで北海道か？と思いますよね。ところがその当時は、50 年くらい前は、私は小学校の歴史で「乱」と教えていました。「乱」に加わったやつならどうしてもいいという意識があったのではないか、と思います。今、韓国では、東学農民運動は運動ではなく「革命」だったのだ、と教えています。歴史はそうやって評価がどんどん変わっていくのだけれども、かつてそういうことがあったことを、我々がそれをどう見ていくか、負の歴史を前向きにどう見ていくか？ということをきちんとやらないと、訳のわからない人間が出てきて、「美しい日本のなんとか」で、我々もそのうちやられる時代が来ますよ。アジアの歴史を正しく語ったら、「お前の歴史観は暗いよね」と言われます、そんな時代が来るかもしれない。国家が価値観をどんどん決めていくから、学力も国で決めちゃったんですね。どうやって生きるかということを。
問：もとに戻りますが、韓国の一般市民から見たアイヌ民族と、在日の我々がアイヌの歴史をどう見るか、日常から見たアイヌと感覚が違うと思うのですが、どう教えたら正しく伝わるかということですが、参考までに僕は 10 月に済州島に行き、済州大学で、済州沖縄学会ができました。沖縄からも先生方がいっぱい行って、済州大学の先生方も参加して、済州と沖縄は観光面では共通点があるけれども、歴史の面ではどうなのか？言葉も違う、対称的な島でもある。それに対してもうちょっと歴史を深く知る必要があるのではないかということで、この度済州沖縄学会ができたのです。ぜひ、金城先生にも入ってもらいたい。済州島から見た、韓国から見た沖縄、沖縄の歴史をどう見るか？という在日から見るのとは別に、韓国から沖縄の歴史、アイヌの方と同じだと思うのですが、侵略があったし、明治政府の話もありますし、そこから学ぶべきだという声が済州の方からもあがって、それを沖縄の先生たちも済州の歴史、済州は差別された地域という歴史も持っているのですよ。沖縄の先生たちも済州の歴史を勉強しようというのです。
司会：今、済州島に海兵隊の基地を造るのに反対して、済州の人たちが沖縄に来て学んでいますね。新しい接点ですね。
問:是非、北海道と韓国のどこかの大学とが済州沖縄学会みたいなものができるといいと思います。
吉田：きっと石純姫先生が進めてくれると思います。
問:先ほどの、文化以上のことを越えて、本当に私も感じています。沖縄も島言葉運動というのがあって、沖縄の言葉を残そうという運動があったり、組踊りという昔から伝わったりするものを残そうというのはあるのですよ。沖縄には何があるかというと沖縄戦までは知識はある程度進歩しているのですよ。伊江島とかも。だけど、戦後史になると途端に引くのですよ。おそらくそこから先は、今の流行語は「忖度」ですけれども、忖度でこれ以上触れると何とかグループが、神奈川出身の国会議員のグループが介入してきて、沖縄にも来るのですよ。自主規制かけてきます。沖縄の日本復帰の日というのがあるのですが賛否両論ありますが、5 月 15 日がわからない高校生が大部分、8 人に 1 人しかわからないのですが、それを文化のところはやる、戦争のことはやるけれども、それが今にどうつながっているかというのを教えようとしないというか、そのあたりが共通していて、韓国との関係も共通している。この壁をどうやって越えていくかがすぐに解決できない課題なのですけれども、どうやって連続した面としてとらえていくか、それが教員としてやらなければならない、そこが課題だと感じています。
司会:忖度ね。ホテルオークラって知っていますか？あれは実は北海道でだいぶ金を儲けた人が、その金で韓国・朝鮮を侵略したのですよ。北海道でやったことを朝鮮・中国でやったみたいな構造があるのです。ますますこれはやればやるほど自分たちの歴史を見つめ直すことになります。

〖感想〗アイヌ協会の方々とともに子どもたちの立場に立っての実践の積み重ね、大きな視点と長い歴史を踏まえての問題点の指摘に深く納得しました。私も『北の大地』（池澤夏樹、集英社）を読み、幕末から昭和にかけての家族の歴史を通しての物語に、アイヌ民族とアイヌモシリを実感しました。また、東学農民運動の首魁の骨が、なぜ、北大にあったのか、については、『明治日本の植民地支配　北海道から朝鮮へ』（井上勝生、岩波現代全書）に詳しく書かれています。近代とは何か、日本の近代とは？先住民族、多民族共生そして移民・難民について、2018 年の地球の現在のなかで、考えていきたいと思います。吉田先生がレジュメの中で願った「人権抑圧と戦争に向かう時代に抗い共生の価値を学び合える」2 時間になったのではないかと思います。

アイヌ・アイヌモシリ・蝦夷地・北海道

アイヌ民族　現在の北海道・千島列島・サハリン島の先住民。狩猟・漁労・採集にくわえてアワ・キビ・オオムギなどの畑作をおこない、オホーツク海を舞台にした交易もしていた。アイヌ語を話し、文字は持たなかったが、口伝えに神話が伝承されている。アイヌとはアイヌ語で「（正しい）人間」の意味。

遺伝子的に琉球の人びとに近いことなどから、本来日本列島に居住していた先住民であり、そのうち弥生時代以降、朝鮮半島から移住してきた人びととまじりあった人びと（のちに大和政権の支配下に入った地域の人びとで稲作などの農耕をおこなう）と、そうでない人びとという違いが生まれたと思われる。7 世紀半ばごろまでに関東地方までを支配下に入れた大和政権は、8 世紀から東北地方の「蝦夷」討伐に向かい、激しい抵抗に会いながらも次第に勢力を拡大していった。

シャモ　アイヌが自分たち以外の、日本列島に住む人びとを指して言った呼称。ここでは和人とする。

アイヌモシリ　アイヌ民族が住んでいた上記の土地。和人は蝦夷地（えぞち）と呼んだ。蝦夷（えぞ　えみし）とは、大和政権が東北地方以北の、いまだ支配下に入っていない人びとを指して呼んだ蔑称。

蝦夷地への和人の侵入とアイヌ民族の抵抗

13 世紀ごろ

津軽の豪族安東氏、鎌倉幕府の蝦夷管領として十三湊を支配し、蝦夷地の産物を交易

15 世紀ごろ

蝦夷地の物産を求める商人たち、渡島（おしま）半島に**十二の館**をつくる

アイヌ人とニシン・サケ・昆布などを取引

アイヌ勘定　取引のとき、アイヌたちの数字の無知に付け込んで数をごまかす

1457　**コシャマインの蜂起**　コシャマインを首領とするアイヌ人たち、十の館を攻め落とす　武器は槍、棍棒、弓矢

1512　1513　1515　1528　1529　1531　1534　1536　と蜂起は続く

和人の対抗策は　**だまし討ち**が多い（和議を結ぶと見せかけ、贈り物をし、酒を飲ませて油断

させて殺すなど）

蠣崎（かきざき）氏（十二の館のひとつの主）、アイヌ人の二人の首長を支配下に置き、部族の統制にあたらせる

1590　蠣崎慶弘　豊臣秀吉に会い、蝦夷地の支配を認められる

1604　同上　　徳川家康から蝦夷地出入りの商人の管理を任される

蠣崎氏、**松前氏と名乗り松前藩の藩主となる**

その後

松前藩　蝦夷地交易権・蝦夷地の資源を独占　来航する商人に課税

物産はサケ・マス・ニシン・昆布　砂金　木材

家臣に**知行地**をあたえ、そこに住むアイヌとの交易権を認める

知行地とは　家臣に蝦夷地を区分けして**「商場（あきないば）」**としてあたえる　家臣はその「商場」で来航する商人とアイヌ人とを交易させ、マージンを取る

→アイヌが交易できるところは商場に限られ、自由な交易はできなくなる

やがて

大坂などの商人が知行主に代わって商場での交易権を入手し、貪欲に利潤を求め始める

大網によるサケ・マスの乱獲

鷹狩り→アイヌ人の狩猟場を荒らす

砂金掘り→川底の砂を掘り、サケ・マスの産卵地を荒らす

和人の浮浪人・無宿者たちが労働力として送り込まれる

しだいに

アイヌ人の食糧を得る場は狭められ、アイヌ勘定によって正当な交易はなされず、抗議すると暴力で抑えられ……**アイヌ人の暮らしは追いつめられて**いく

静内のシャクシャイン像

1669　シャクシャインの戦い

シベチャリ（今の静内）の首長シャクシャイン、アイヌ人たちに一斉蜂起を呼びかける（文字はないから、伝令が各地に走った！）

静内から小樽、釧路にいたる各地で蜂起　和人を殺し商船を焼く（和人の死者約 240 人）

シャクシャイン軍、室蘭を経て国縫（くんぬい）へ。松前藩側　兵士と坑夫たち　約千人　シャクシャイン側　二千人

和人の鉄砲に対する**アイヌの毒矢**・大刀は敗北し、静内に退く

松前藩　和議を提案しそれに応じたシャクシャインらに酒を飲ませて殺す（シャクシャイン 64 歳）

松前藩　首長たちから**誓約書**を取る　**「以後、孫子にいたるまで殿さまに反抗しないこと」**

その後　松前藩の支配、全島に広がる

場所請負制　商人が「商場」の交易権を得て、知行主と松前藩に運上金を納める

請負人は「商場」に支配人・通訳・番人（無法者など暴力的）を置き交易をおこなう

交易品　アイヌ側　鷹　鷲　鶴　熊皮　熊胆　昆布　キノコ　サケ　ニシン　貝　ナマコ　鹿皮　トドの皮　クジラ　など

和人側　米　酒　藍　鍋　糸　出刃　針　タバコ　古着　木綿　漆器など

レート　玄米 8 升にサケ 100 匹

昆布　北前船（西廻り航路）によって長崎・琉球へ　いずれも中国への輸出品となる

ニシン　藍・綿花など商品作物栽培の肥料となる

やがて大網漁法が盛んになり、アイヌたちは魚が取れなくなる

→**和人に雇われて使われるようになる　奴隷化**　男女別々に仕事場をあたえられる　集落は崩壊し人口は減少する　和人がもたらした天然痘・梅毒の影響もある　やがては若い人たちが**強制的に集落から連れ去られて**働かされた

クナシリ島では

早くからロシア人と交易

首長ツキノエ、和人の入島を拒否する→松前藩、クナシリと本島との交易を禁止

→クナシリはいよいよロシアとの交易に頼らざるを得なくなる

当時　ロシアは

1689 年に清との間で結んだネルチンスク条約により現在の沿海州（ハバロフスク　ヴラディオストックなど）への南下を阻まれ、カムチャッカから千島列島を南下する　毛皮を得るためのラッコ猟など

1773　ロシア、択捉島に拠点を置いてラッコ猟をおこなう

1778、79　ロシア、ヨーロッパに毛皮を送るためのルート開拓のため、日本との交易を望み、納沙布半島に来る　当時、イルクーツクには日本語学校があった

ロシアは、日本に開港を断られ、腹いせにクナシリとの交易を止める

孤立したツキノエはついに「商場」開設を受け入れる→**クナシリアイヌの奴隷化**

1789　**クナシリ・メナシの戦い　アイヌの蜂起**起こるが鎮圧され、クナシリは松前藩の支配下に。

ロシアの南下と幕府の蝦夷地防衛策（初めて「蝦夷地」を認識する）

1783　工藤平助『赤蝦夷風説考』ロシアの南下を防ぐためアイヌを手なづけ取り込むことが必要
林子平『三国通覧図説』同上

1786　田沼意次の「エタ・非人による蝦夷地開拓案」→挫折

1786　最上徳内　第一回蝦夷地調査

1792　最上徳内　第二回蝦夷地調査

1792　ロシアのラックスマン　漂流民の大黒屋光太夫を連れ、交易を求めて根室に来航

1798，99　最上徳内　近藤重蔵　蝦夷地調査　エトロフ島に「大日本エトロフ」の標柱を立てる

1799　東蝦夷地を幕府直轄地とする

1804　ロシアのレザノフ　長崎に来航

1807　西蝦夷地を幕府直轄地とする　　アイヌ同化策　日本語　日本風の髪型

1808-09　間宮林蔵　樺太を探検し間宮海峡を発見

1811　ロシアのゴロウニンをクナシリで捉える

1812　高田屋嘉兵衛　ロシア艦に捉えられる→ゴロウニンと高田屋嘉兵衛の交換

1821　東西蝦夷地を松前藩に返還　←ナポレオン戦争の影響によりロシアの南下なくなる
（このころイギリス船しばしば来航）

1825　→異国船打ち払い令（外国船が来航したら無条件で追い払え）

1840-42　アヘン戦争（清の敗北にショックを受けて、外交政策を緩和）

1842　打ち払い令を廃止　天保の薪水給与令（求められれば燃料や食料をあたえる）

1845　松浦武四郎の蝦夷地調査　『近世蝦夷人物誌』出版されたのは 1912 年
場所請負人の非道とアイヌ人の惨状を告発
－アイヌ人口の減少　1804 ごろ　26,800 人あまり　1854 年　10,805 人

1854　日露和親条約

1855　蝦夷地をふたたび幕府直轄地とする

日本とロシアとの国境

1854 日露和親条約…千島列島はエトロフ島以南は日本、ウルップ島以北はロシア、樺太（サハリン）は両国雑居の地
1875　千島・樺太交換条約…千島列島は日本　樺太はロシア
（→樺太アイヌの一部を北海道に強制移住させる）
1905　ポーツマス条約…樺太の南半分は日本領
1951　サンフランシスコ条約…日本は樺太南部・千島列島を放棄
（ただしエトロフ島以南はソ連（ロシア）が不法占拠しているというのが日本政府の主張である）→日本とロシア間の**「北方領土問題」**
1956　日本は旧ソ連と国交を回復…しかし北方領土問題のため、平和条約はいまだに締結されていない）

明治国家の北海道経営

1869　蝦夷地に**開拓使**設置（1870　蝦夷地を「北海道」と改称　）
1874　屯田兵制度開始　開拓と防衛のため約 4 万人
1877　**北海道地券条例**　（地租改正条例にあたる）**北海道の土地（アイヌ人の土地）をすべて官有地としたのち、一部「土人給与地」を残し、民間に払い下げ**
→よい土地を確保のため**アイヌの強制移住**―「内地」よりの移住者 1897 年までに 786, 000 人
アイヌ人同化政策（1873 年　アイヌ人口は 16, 270 人）
・死者が出ると小屋を焼くことを止めさせる　・男子の耳環・女子の刺青の禁止
・日本語と文字を習うこと　・日本風の姓名を名乗らせる　・毒矢の禁止→狩猟できなくなる
狩猟漁労採集生活を止め（事実上できなくなっていた）稲作をさせようとする
1899　**北海道旧土人保護法**
・北海道アイヌを一般の日本国民と分けること（戸籍の分離）　・アイヌ戸籍にはアイヌと表記する　・アイヌの土地所有権の制限（不動産の相続権の停止など）　・アイヌ語の廃止
日本への同化政策（1901 以後　小学校の設置）
―土人給与予定地（「北海道旧土人ニシテ農業ニ従事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一万五千坪以内ヲ限リ無償下付スルコトヲ得」の規定にもとづきアイヌ民族に給与された土地）
アイヌは申請によって土地を下付されたが、文字を知らないため申請そのものが難しい。下付された土地が稲作に適さない場合もあり、稲作の指導もなかったため、実際にアイヌが稲作をおこなうことは困難で他人（和人など）に貸して小作させることもあった→戦後の農地改革によって、これらの小作契約を結んだ土地は、強制的に買収された。
　また、この土地をめぐってたとえば大倉組と官僚が手を結んでアイヌからよい土地をだまし取ろうとするなどの動きが多発。

アイヌ民族の闘い

知里幸恵（1903－1922）　1923『アイヌ神謡集』　長く口承されてきたカムイユカラを出版
違星北斗（1901－29）アイヌ民族の結束を願い、雑誌『コタン』を創刊
　勇敢を好み　悲哀を愛してた　アイヌよアイヌ　今何処に居る
　その土地のアイヌは皆死に絶えて　アイヌのことを　シャモに聞くのか
　滅び行くアイヌの為に立つアイヌ　違星北斗の瞳輝く

青春の希望に燃ゆる　此の我に　ああ誰か此の悩みを与へし

森竹竹市（1902－？）　詩集『原始林』

「天孫降臨即ち天孫民族と自称する和人共が日本へ上陸前から日本を占有して居た真正日本人は我々アイヌ民族であったのである。然るに此の先住人たる我々アイヌが何故今日猶其の大半が原始生活を営んで居らなければならないのか？……私共アイヌ民族は、自分達こそは真正日本人である自覚の下にアイヌ民族の誇をもって平和日本建設の為にスタートを切ろう。嘗て侮蔑の代名詞として冠せられたアイヌー自分達もそう呼ばれる事に依って限りない侮蔑感を抱かせられた此の民族称を、今度こそ誇りを以て堂々名乗って歩こう。」（アイヌ協会機関紙『北の光』1948）

1946　北海道アイヌ協会設立　アイヌ給与地返還運動　新冠御料牧場解放運動など

1970　「風雪の群像」事件…旭川に建てられた北海道開拓の記念碑「風雪の群像」（本郷新作）をめぐって、「コタン」の象徴としてアイヌの老人が和人の青年４人の前に膝をつき、案内するように何かを指差している姿に対し、「アイヌを立たせろ」と要求。本郷は老人を腰かけた姿に変える。

旭川の風雪の群像

1970　静内にシャクシャイン像を建てる（竹中敏洋作）

このころ　伝統的儀式　イオマンテ（霊送り）が復活

1972　新谷行・大田竜ら、シャクシャイン像台座の「知事町村金五書」の文字を削り取る

1983　北海道ウタリ協会（現北海道アイヌ協会）によるアイヌ語教室

1987　国連「第５回先住民作業部会」にアイヌ代表出席

先住民族とは「当該地域で生成した被侵略および非植民地化以前からも、社会との歴史的連続性を有し、自らを当該地域で支配的な他の社会構成員とは異なるとみなしている人びとをいう」

萱野茂（1926－2006）

1972　二風谷アイヌ資料館を設立（1983　二風谷アイヌ語塾を設立）

1992　二風谷ダム裁判　二風谷ダム建設のため萱野・貝沢の土地が強制収容、両氏が不服申し立て→1997　札幌地裁判決で「アイヌ民族はわが国の先住民族」

1994－98　初のアイヌ国会議員（参議院議員）　「日本にも大和民族以外の民族がいることを知って欲しい」という理由で、委員会において史上初のアイヌ語による質問をおこなう

1997　アイヌ文化振興法（アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律）成立　同時に旧土人保護法廃止 1997　アイヌ文化振興財団　アイヌ語講座、アイヌ語弁論大会、アイヌ語ラジオ講座等を行なう

2007　国連総会「先住民族の権利（自決権・土地や資源に対する財産権）に関する国連宣言」採択

2008　国会で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択

（まとめ：波多野淑子）

―主として新谷行『アイヌ民族抵抗史』（1995、三一書房）によるが、『アイヌ民族：歴史と現在』（2008 アイヌ文化振興・研究推進機構）、アイヌ民族に関する人権教育の会『イランカラプテ』（2017 明石書店）などにより補足した。―

ウリ 112 号　2018 年 2 月 4 日

日韓合同授業研究会

代表　藤田

事務局連絡先

E-mail: larribee1991@yahoo.co.jp